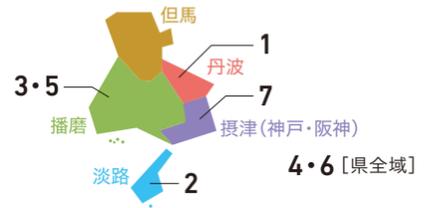


# 旬トピ! ~Timely Topics in HYOGO~



ひょうごフィールドパビリオン

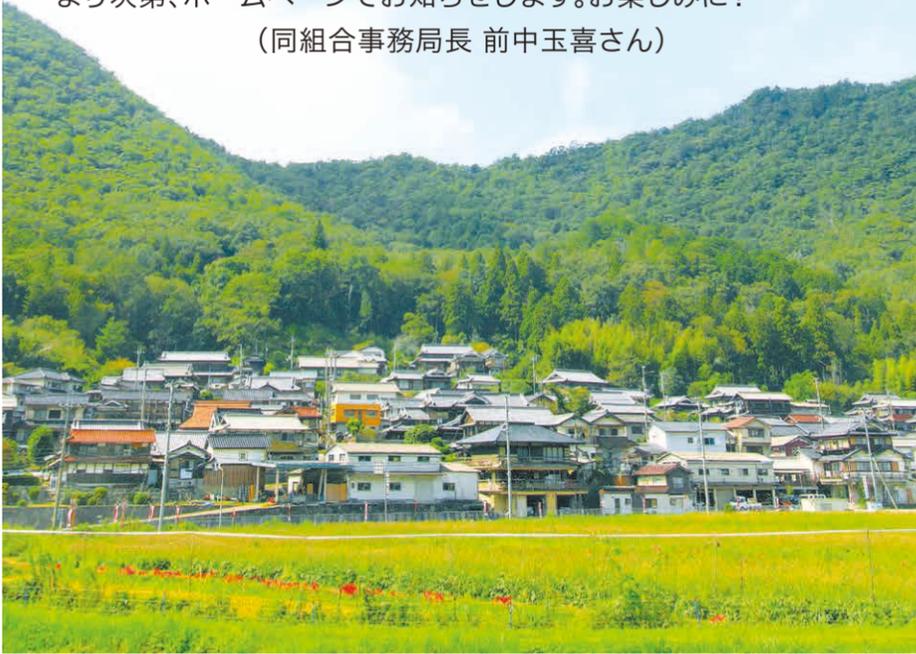
2025年大阪・関西万博に向けたSDGs体験型プログラムを紹介

今月の表紙

## 1 秋深まる丹波焼のふるさと 窯元との交流ツアーを計画中

山裾に窯元が集まる丹波焼の産地では、窯元巡りや陶芸体験といった定番の楽しみ方に加え、これからは紅葉も見頃を迎えます。丹波立杭陶磁器協同組合は2025年大阪・関西万博に向けて、窯元との交流や路地散策、「最古の登窯」の見学等をセットにしたガイドツアーを企画し、来年度にプレ実施を予定しています。窯元に教わるろくろ体験をはじめ、金継ぎや窯詰め体験、自作の食器で料理を楽しむ飲食店とのコラボメニューなどを用意。詳細が決まり次第、ホームページでお知らせします。お楽しみに!

(同組合事務局長 前中玉喜さん)



1 窯元が連なる路地を散策するのも楽しみの一つ。2 丹波焼の産地に現存する「最古の登窯」は1895(明治28)年の築造。全長47m、9つの焼成室があります。3 多くの窯元はギャラリーと直売所を併設しています。4 陶芸体験では窯元が丁寧にろくろの使い方を教えてくれます。



丹波焼の  
湯飲みを5人に  
プレゼント

応募方法は7面へ

◎丹波伝統工芸公園「立杭 陶の郷」  
☎079-597-2034 ☎079-597-3232 陶の郷

※一部の窯元では通年で陶芸体験教室を実施しています。詳しくはホームページの「窯元検索」で確認してください

## 2 高度な技術で育てる 淡路の花

県内約50戸の農家で生産されるストックは、全国4位の出荷量を誇っています。とりわけ淡路島で栽培されるものは切り花としての品質に優れ、市場で高い評価を得ています。日当たりの良い立地を生かして1933(昭和8)年ごろから淡



2021年テーマ「白鳥」

「あわじ花さじき」では、11月中旬から背丈の低い花壇用のストックが見頃を迎えます。今年のテーマは「i love」。

路島北部で栽培されるようになりました。中でも「淡路ホワイト」「淡路ピンク」は地域オリジナル品種で、栽培しにくい春先でも80cmほどに育ち、存在感がある人気の花として産地を支えています。地域の農家を支援する北淡路農業改良普及センターでは、高度な技術を必要とする栽培方法の継承等によって安定した生産・出荷体制を確立し、また



農業改良普及センター職員は、農家を巡回し、相談や指導に当たります(右側が石上さん)。

た二期作により11月から6月までの長期出荷の生産拡大を実現しました。今後も産地と協力し、高品質な花を生産するために新技術の普及に努めます。(同センター普及主査 石上佳次さん)

◎淡路県民局 北淡路農業改良普及センター  
☎0799-62-0671 ☎0799-62-2261

北淡路農業改良普及センター

草丈は80cm程度に成長し、開花するとボリュームのある美しい姿に。甘い香りが魅力です。

